

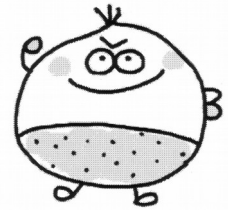
HDM推進会（第40回）／ごみゼロネット推進会（第62回）議事録

開催日： 2013年（H25年）7月10日（水）10:00～12:00

場所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 加藤、平林、大橋、杉本、川村、山本、桐生（作成）

議題：



1. 市議員へのHDM実証試験の進捗報告の結果検証（全員）

- 各会派ともごみ問題については、現在は「見ざる・聞かざる・言わざる」に徹している。何らかの発言が、日野市との共同処理問題で日野市側の市民や市役所サイドからの反撥に繋がり、その責任を追及されることを恐れてである。特に「言わざる」は徹底しており、小金井市議員には緘口令がひかれているかのようである。日頃、明快な発言の共産党にして然り。見事な統制ぶりであった。
- 自民党議員は「自分たちは何も喋れないが、貴方がた市民グループの方たちはどんどんやってくれ」との発言があった。

2. ごみ・生ごみ問題の現状報告（加藤）

多岐にわたり丁寧な説明があった。その中で多摩川衛生組合の方たちが報告者となった「ごみ焼却場で働く人が語るごみ焼却の実態」はショッキングな実態を赤裸々に語っており、資料としての価値が高いので、次頁以下に転載する。

3. 今後の進め方についての討議の結論

- (1) 議員を動かそうと思っても、絶対に駄目と判った。
- (2) 日野市の市民グループとの直接接触で事態を打開できないか。

以

上

添付資料：「学集会・ごみ焼却場で働く人々が語るごみ焼却の実態」

3頁

次回打合せ 8月21日（水）10:00～12:00 コミュニティサロン・はけ
お盆休みのため、今回だけは第三水曜日となる。

学習会「ごみ焼却場で働く人が語るごみ焼却の実態」

2013年6月23日 加藤了教

日時・場所：2013年6月22日（土）19～21 日野市東部会館

主催：日野・市民自治研究会（司会 鷺尾由紀太氏）

テーマ：「ごみ焼却場で働く人が語るごみ焼却の実態」

～現場の人は知っている～

報告者：町田市クリーン文化センター職員川田氏（8年間多摩川衛生組合で働きこの4月に異動）
多摩川衛生組合施設課庶務係主任 伊藤健一氏

参加者：約20名（小金井市からは山本氏と加藤参加）

勉強会は司会進行で、始めから質問・回答、意見形式で行われたので回答の要旨を述べる。

はじめに（川田氏）

- 1、*一部事務組合は、処理場設置場所の市長が管理者となり責任をもって施設を運営していくので、運営等に強い影響力をもつ。他市市長は副管理者となるがなかなか意見が通らない。3市共同化が実現すれば日野市長の意向でほとんどが決まることになるだろう。そうなると必ず何か曲がった方向に行く。
*焼却場では報告したくないこと沢山ある。これらを隠す体質があるのを知って欲しい。
- 2、焼却場の運営は民間会社が行う、入札で安い会社を選ぶことになるので、そこで働く職員にしわ寄せが来る。また設備にもカネをかけないため傷みが激しい、40年もつものが25年しかもたないことにもなる。まともな運営・皆さんにわかる運営をすべきと言う職員は外に出されてしまう。伊藤さん（今日の報告者）もその一人である。

質疑（川田、伊藤氏が回答）

Q：ごみの減量と焼却炉の安定運転は矛盾するのではないか。ごみが少なくなれば焼却炉の安定的・効率的運転が出来なくなるのではないか。

A：確かにそれはあります。均一なごみなどありえない。800℃程度ではダイオキシンが出る。900～1100℃で燃やすように心がけているが、ごみの質や量によっては出来ないことがある。

A：ダイオキシンなど公表された測定値は当てにならない（ウソを發表している）

ダイオキシンなどを測定している会社は許認可制、測定値が高いものはカットしてしまう。焼却場から出る排ガスは安全ですと言うのは「ウソ」、信用してはダメです。やっている私たちが言うのだから間違いない。測定会社は本当の数字を出したならば管理者から怒られる。本当の数字を知りたかったら、皆さんが選んだ会社が独自に測定することです。

Q：測定項目・時間や測定回数について

A：*22の環境項目があるが測定しているのは6項目、測定中高い値低い値が出るが、低い値を測定値とするようになっている。従って「何も有害物は出ていませんよ」となる。測定値は皆さんに見せません。見たければ情報公開の手続きになるが、申請の仕方によっては分からないことにもなる。全てを開示させなければならぬ。

*排ガス測定するときは事前連絡があり、24時間前から異常値が出ないように周知な準備する。ごみの量・質や焼却温度も管理した上で測定する。ダイオキシンの測定は年1回

であるが2回している。高い値と低い値が出ると低い値を真の測定値とする。

*金属の中には蒸発して測定できないものがある。鉄やレアメタルなどお金になる金属が残渣として残る。これら売っているが公表していない。情報公開で知ることになった。残渣金属には粒メタルとベースメタルに分かれるが、粒メタルで言うと、多摩川衛生組合は次の収入を得たことになっている。H12年97万6千円、H13年67万円、H14年度291万円、H15年度282万円、H16年度929万円、H17年度1,200万円、H18年度1200万円、H19年度1,100万円、H20年度1,500万円、H21年度1,500万円、H22年度3,700万円、H23年度8,700万円、H24年度1億1,700万円。H24年度はH14年度に比べ40倍となる。これは業者に対してまともな取引をしていないこと表している。プラントメーカー、引き取り業者、行政がカネを分け合っていたことになる。売れる金属はこの焼却場でも出ている。「出たものは俺のものだ」という話ではない。多摩では最終処分場でも出ている。Hの出の工場でもこれを公表していない。

Q、測定値を運転作業員はどのように見ているのか

A、送られてくる資料を見るだけの人これがほとんど、疑問をもって告発する人はほとんどいない。皆さん、資料全てを疑ってかかる必要がある。

Q、私たちがリサイクルごみとして分別したものがリサイクルされているのか。

A、皆さんにはリサイクルしなさいとっているが、処理場ではかなり燃やしている。燃やしてしまった方が安上がりであるから。

Q、焼却場の大型化・集約化について

A、行政は焼却施設の集約・大型化を言っているが、これはプラントメーカーが施設建設や運転で儲けるためにある。プラントメーカー独占5社が談合で決めている。震災のガレキ処理のため500t炉3基計1,500t/日、福島県に三菱重工が建設した。これは試験的で、この結果をもとに日本中に広めようとしている。多摩地域にガレキ処理の要請が来なくなったのはここにある。今後全てのごみ、何でも燃やすことを考えている。これが目的。

Q、バグフィルターの亀裂・破損の検知について

A、何百あるバグフィルターの1つや2つが破損したからといって検知できるものではない。またバグフィルター突き抜けてしまう物質はいっぱいある。蒸発する金属、PM2.5は突き抜けてしまう。バグフィルターは最後取替え、産廃業者が処分する。有害物質は最後まで残る。

川田氏：スートブローアについて知っていますか

スートブローアとは、焼却効率を維持するために灰などを掻き落とす作業（煤払い）。やらなければバグフィルターがもたない。作業は夜中にやり、煙突から外に出す。昼間は黒煙が目立つので夜中人が見ていないときにやる。スートブローアは必ず毎日行う作業です。この時の排ガス測定はしないので、知るには市民が信頼できる測定業者か大学に依頼し、測定するしかない。

Q、運転作業員の健康について

A、運転作業員は四六時中有害空気の中にいる。ダイオキシンの血中濃度は普通の人と比べて極めて高く、子どもを生めない。若い人は来ないし、来ても辞めてしまう。臭いところで作業するため、風呂に入っても臭みは抜けない。

Q、ごみの質について

A、3市それぞれ分別の仕方が違うのでごみの質を均一にできない。有害物質を焼却炉から排除できない。

Q、燃やすごみの処理費について

A、*多摩川衛生組合では 25,000 円/t 程度である。小金井市からのごみ処理委託 48,000 円/t は取り過ぎ。事業系ごみは安く受けている。3市共同で日野市の負担が軽減されるというが、その分市民に還元されますか、税金が安くなりますか、安くなりません。そこを考える必要がある。

*日野市が他市に無理難題と思われること要求しても、他市は引き受けることになるだろう。

Q、ガレキ処理中の放射能について

A、放射能はどのような処理をしてもなくなりません、焼却することによって濃縮される。今後、日の出処分場では大問題になる可能性がある。

Q、三市共同化の今後について

A、これは憶測であるが、三市共同化が困難になる可能性に備えて別の検討もしているようだ。9市共同化構想である。多摩川衛生組合構成市に加え、日野市、国分寺市、立川市など加えた一部事務組合構想。

その他

*小金井市の佐藤市長はある意味、嵌められた。

*市民説明会で、行政は「サクラ」を使うので、気を付けたほうがよい。会合の時に一人でも二人でも「その通り」とやられると、反対の意見が出しにくくなる。それを狙っている。